

2025年度

Peach Women's Business School

第12回

登壇者：千葉商科大学 基盤教育機構 准教授
働き方評論家 いしかわUIターン応援団長
常見 陽平氏

講演テーマ：「講師とディスカッション形式で学ぶ
これからの働き方」

2025年度PWBS 第12回アンケート集計結果

研修日：2026年1月23日(金)

登壇者：千葉商科大学 基盤教育機構 准教授、働き方評論家、いしかわUIターン応援団長 常見 陽平氏

講演テーマ：「講師とディスカッション形式で学ぶ これからの働き方」

(1) 一番印象に残っていることは何ですか。一つ挙げて下さい。

多様性を尊重することの理由として、まず前提として一つ人権の観点があるということ。
個人的なことは、すべて社会的なことであるというお話が一番印象に残りました。
非攻撃的自己主張の有用性
講義の中で話されていた、「時間の主導権を握る」という言葉です。
企画の「国語・算数・理科・社会」について
先生が自身の目的を意識的に行動に落とし込んでおられる点
常見先生の人を惹きつける話し方、そして楽しそうに話されるお姿です。
国語、算数、理科、社会の順で物事を考えて提案していくことで、目的と行動が合致した企画になるという事です。
日々変化し続ける現代において重要なのは「センスを磨く」ことである、という常見先生のご見解について。
個人的なことは、すべて社会的なことである」「自己責任ではなく会社責任、社会責任」という言葉は、とてもインパクトがあり、これまでの固定観念を覆されるような考え方でした。
P.16 のワーク「あなたが働く上で困っていること、モヤモヤしていることを共有してください」が印象に残っています。
「個人的なこと」は、すべて「社会的なこと」である
「本日、お伝えしたいこと」

今回の講義も大変興味深く拝聴いたしました。どれも興味深いお話ばかりでしたが、なかでも一番印象に残ったのは“「個人的なこと」は、すべて「社会的なこと」である”という言葉です。常見先生が例を交えて説明して下さった内容は、どれも共感するものばかりでした。

センスを磨くことに関する内容が特に印象に残りました。

- ・気が進まない企画はそもそもセンスが良くない
- ・画面がなくても伝わる話し方や、誰にでも理解できるように伝える力を意識すること
- ・多様な視点を取り入れながら、学び続ける

『個人的なこと』は、すべて『社会的なこと』であるということ

『個人的なこと』は、すべて『社会的なこと』である。

企画を検討する際の、国語・算数・理科・社会、という視点

配布頂いた資料31ページの「企画の、国語・算数・理科・社会」の部分です。

「センスを磨くことが大事であり、人間活動を通じて“人間にしかない感性”を磨くことが重要である」というお話が最も印象に残っています。

まず、先生の軽快なトークがとても面白かったです。
その中で、最近大事だと思っていることに「センスを磨く」とおっしゃった点が印象に残りました。

「ロマンとそろばん」の順番を間違えてはいけないという言葉を噛み締めました。

その理由をお聞かせください。

多様性を尊重する理由として、「働き手の確保」や「生産性向上」「意思決定の質向上」といった社会のメリットをよくイメージしていました。しかし今回「みんな一人の人間としてそれぞれ尊重されるべき存在である」という“人権”を起点とした理由も改めて認識し、ハッとさせられました。経済的なメリットの話にとどまらず、社会の価値観に関わる大切なテーマだと改めて感じ、印象に残りました。

社会的なことは個人的なことになりやすいですが、逆は難しいと思う中で、実際に先生が実行されたアクションの話が、自分では思いつかない内容で驚きと納得がありました。

できるだけ対話の際にはアサーティブに物事を伝えられるように心がけており、一定の効果はあると感じてはいるが、相手によってはこちらに向けて準備していた攻撃性が封じられ、そのフラストレーションが他者へ向かっているような状況をしばしば目撃することがあり、目下その解決策を模索中のため。

仕事や家事・育児に追われ、思うように自分のための時間を確保できないことに日々モヤモヤしていました。その中で、「時間の主導権を握る」という言葉が強く心に響きました。

今後は、物事の優先順位を意識しながら時間の使い方を選択し、自らの意思で時間をコントロールしていくことを心掛けたいと思います。

「国語・算数・理科・社会」の順番で課題解決を考えるというお話にとっても納得しました。今、子育てをしています。学生時代の勉強とは知識を身につけることだけでなく、物事を順序立てて考えることができるための土台なのだと改めて感じました。

スケジュール確認を朝のコーヒーと紐づける、ストレスを削減するためにスマホを最新機種にする、ストレスを削減するために本棚の整理をする、新しいことへのアンテナを張るためにファッションセンスも磨くなど、日々の習慣とされていることが、どういう効果を生むのかを考え実行していらっしゃる点に感銘を受けました。学びの時間については、子育て中でなかなか時間が取れないと考えていましたが、そんな私にも行動を変えることで時間は作れると感じました。例えば、夕食後の食器洗いの時間に今はプライベートで興味のある子育て関連の動画を視聴することが多いですが、これを月曜日だけビジネス関連のコンテンツに変えるなど、具体的にハードル低く行動に落とし込むことで実行できそうだと感じました。目まぐるしく変化の大きい時代。日々忙しい中自分の生活を有意義に送りながらも、仕事でも新しい価値観を取り入れて充実させたいと考えます。

講義を受けているという感覚でなく、インプットとアウトプットを断続的に実践しながら聞くことができたからです。また、今回は、成果発表に通じるテーマであり、私たちの発表内容とも近い内容で、改めて自分自身にとって「働くとは、その意義とは、そして自分の在り方」などを考える時間となりました。

やる事が目的になっている制度や改善等が多くあり、仕事でも無駄なことに時間を使っていると実感することが多かったので、国語（気持ちや文脈）が抜けているのかも気づきました。業務改善を考える上でも国語が抜け落ちることは多いと思うので、この順番で考えていくことにしようと思ったからです。

これまでの講義を通じて、私たち自身を取り巻く環境の変化（世界情勢、働き方、経済など）について、またその変化に対応していくものの見方や考え方について学ぶことができましたが、その総括的な言葉が「センスを磨く」なのではないかと個人的に納得できたからです。センスの磨き方として、感情が動く瞬間をたくさん作ることを教えていただきました。感情が動くことを積み重ねていくことで、目の前の出来事や変化をその大小を問わず察知し、自分なりに考えたり対応したりしていくことを繰り返しながら、自身のセンスを磨いていきたいと思いました。

最近の風潮でもありますが、「すべてのことは自己責任」という考えが、自分の中で無意識の癖になっていることに、この研修で気づかされました。自分に起きた問題を自己責任と捉えて1人で抱え込むことは、決して良いことではなく、かえって問題解決を遅らせたり、自分を追い詰めたりする恐れがあります。むしろ、人や組織を頼り、協力して解決していくことが必要だと学びました。

今後は、困った時には周囲に相談することを意識していきたいと思います。

「モヤモヤすることがない」とグループ発表で答えられた場面がありましたが、この場合は疑ってみる必要があるとのアドバイスがあったこと。
何も無い＝気付いていないだけで真に満足しているとは限らない、のだと認識できました。
職場の同僚や後輩と意見交換する際に、肝に銘じておきたいと思います。

仕事に関係のない個人的な困りごとでも、結局は、会社や世の中に繋がっているため、会社責任、社会責任として対応するべきという考え方にとっても驚きました。個々が重視している常識を理解できるよう、アンテナを広げていこうと思います。

自分が日々なぜモヤモヤ感じるのかについて腑に落ちるところがあったので一番印象に残りました。特に「自己責任ではなく会社責任、社会責任」「常識をうまく手放す」「多様性を本気で尊重する」です。モヤモヤの原因、仕組みを改めて考えると少し気持ちがラクになりました。

“「個人的なこと」は、すべて「社会的なこと」である”という言葉から、私たちが抱える悩みやモヤモヤは、個人の問題として片づけられるものではなく、社会全体の構造や制度と結びついている――つまり「個人の悩み＝社会全体の課題」である、という視点に気づかされました。これまでつい“自己責任”で片づけてしまっていたのですが、実際には社会や組織の在り方が原因となっている場合も多く、それを変えていくのは簡単なことではないと感じました。先生が具体的な改善行動として「行政に意見する」とおっしゃっていましたが、そういった小さな一歩が必要で、自身に不足している行動力だと思っています。今回の講義を受けて、「変わる」ための行動を何か起こしたいと強く思いました。

「画面がなくても伝わる話し方」や「誰にでも理解できる伝え方」を意識することは、報連相や他部署との調整など、日常のコミュニケーションにも直結すると感じました。結論から話すこと、分かりやすい言葉を選ぶこと、相手に合わせて説明の深さを変えることなど、基本を意識するだけでやり取りの質は大きく変わると思いました。

さらに、多様な視点を取り入れ、学び続ける姿勢そのものがセンスを磨くことにつながるという考え方も、今の業務にそのまま活かせる学びでした。

介護など個人的な事情だと思っていたことが、社会的なこと（公的課題）であるという視点に非常に感銘を受けた。
社内においても個人の事情だけで終わらせず、制度・環境など外部要因として捉える視点を持ち、選択肢や仕組みの改善などの提案につなげていきたい。

講義の中で『モヤモヤする事は』という問いに率直に違和感を持つ事なかったのですが他者の意見を聞くことで【言語化】が鏡の役割をし自身の内面を映し出してくれました。色々な面で消去法的な考え方をしていたこともありましたが純粋な自由意志ではなく社会構造との地続きだったことに気づくことが出来たからです。自己効力感を高めキャリアに繋げていきたいと思いました。

自身の業務として、新たな取り組みを企画・検討する場が多いため、上記の考え方が非常に有効になると考えたためです。方法（理科）については企画・検討の際に考えやすい項目ですが、それ以外の視点については、企画に時間をかけるほど忘れがちになると感じます。何かに取り組む、ということは、『何かを変えたい』という目的があるから検討します。その目的が方法を取ることに置き換わらないよう、学んだ視点を常に意識していきます。

お客様への提案書を作る際に、算数から入ってしまうことがよくあるなと感じました。
数字や現実性の話の前にロマン、夢、アイデアを描くことが大切だと感じました。

仕事でも生成AIを活用する場面が非常に増え、“考える”部分をAIが担う時代になってきていることを日々感じています。そのなかで、「人間でしかできない力」を磨く重要性が高まっていると感じました。
これまでも、生成AIが出力した内容を鵜呑みにせず、自分で再度確かめることは習慣化していましたが、今回の講義を通じて、人間活動を通じて人間にしかできないことを磨くという、もう一段上の視点が大事であることが非常に腑に落ち、共感しました。
そのなかで、自分自身が「感情が動く体験」というものに時間を割けていないことにも気づかされました。今後は、文化的な体験や心が動く出来事にも意識的に触れる機会をつくろうと思います。

多様な経験をされた人ほど、「センスを磨く」ことを大切にしているという話に興味深いと思いました。
表現が難しいセンスですが、特別な才能ではなく日々の経験や知識・情報をどのように受け取り、考え、判断していくかという姿勢に関わるものと感じました。
具体的なスキルや知識を学ぶことも重要だが、それらをどのように活かすかを左右するのがセンスであり、今後の業務においても、自分なりの判断軸を意識しながら経験を積んでいくことが大切だと感じました。

業務上、研修の企画や人事制度改定に携わることがあります。先に具体策に行きがちになるとはまさにその通りで、何度も行き詰ったときには「どのような会社を目指しているのか」「何を解決したいのか」に立ち戻るようにしていました。具体策を検討した後は、その施策によって本当に抱えている課題が解消されるのかを冷静に見直す必要もあり、「企画の国語・算数・理科・社会」もあわせて意識しておきたい言葉でした。
早速、休日に新書を一冊購入してみました。少しずつでもセンスを磨きたいと思いました。